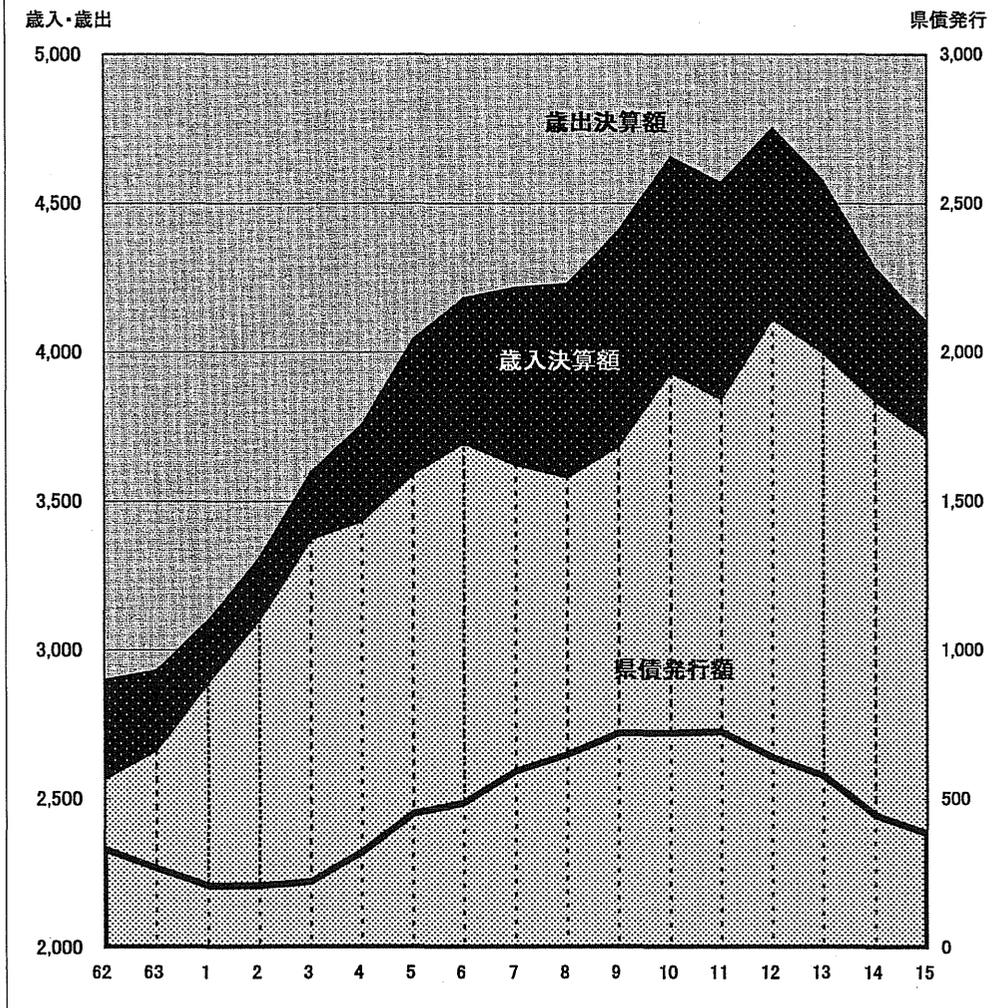
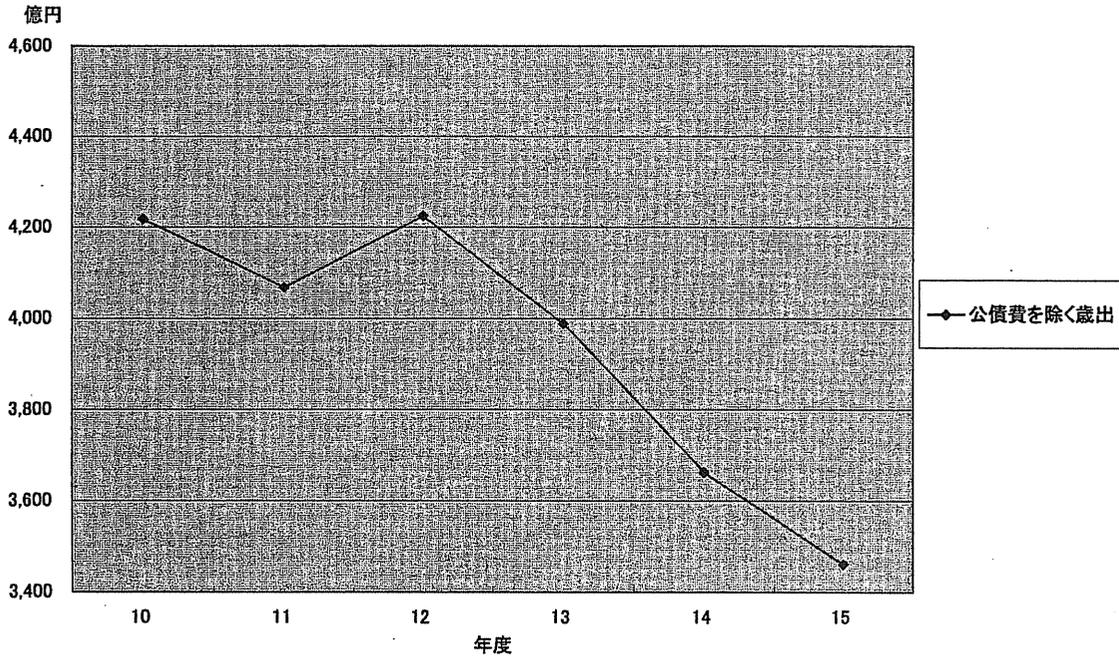


歳入歳出の乖離＝県債発行額の推移

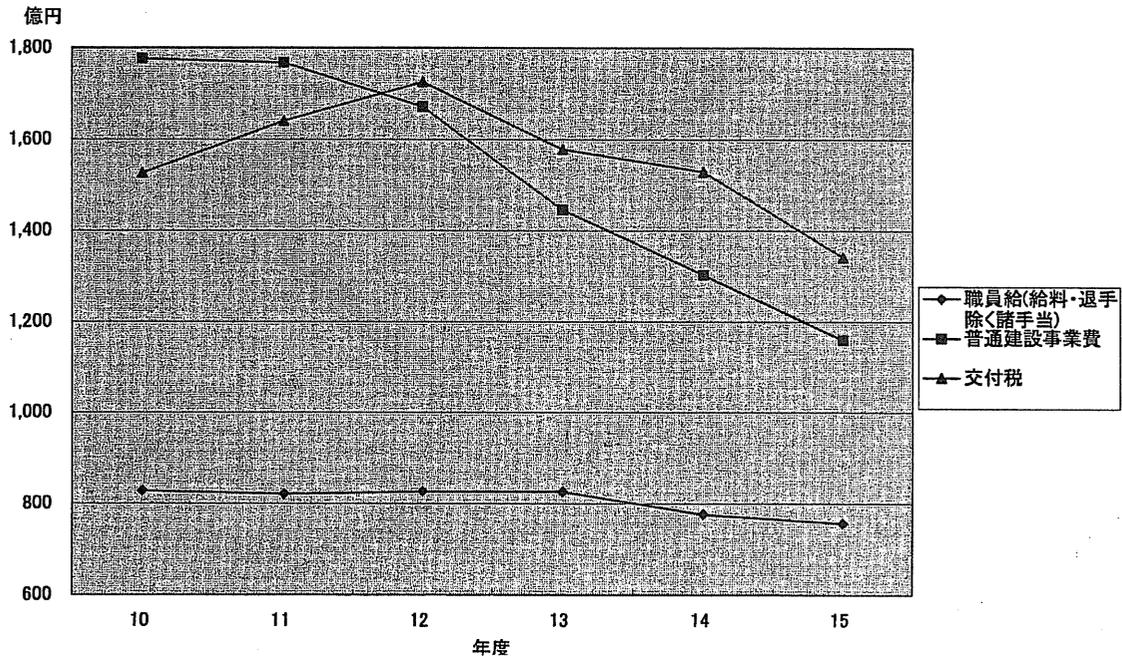


※このグラフでの県債は、NTT債(国庫補助金代替)と臨財債(交付税代替)を除いたもの
 また、歳入決算額は、県債と翌年度への繰越を除いたもの

普通会計歳出決算額の推移(公債費除く)



交付税・普通建設・職員給の推移



○歳出の状況(決算額) (単位: 億円)

区分	10年度	15年度	差引
歳出総額 (公債費を除く)	4,218	3,461	△757(△18%)
公共事業などの普通建設事業費	1,777	1,160	△617(△35%)
職員給与費	828	757	△71(△9%)

※職員給与費は給料及び退職手当を除く諸手当の額の合計

(参考) 公共事業の歳出の状況(2月補正後予算額)(単位: 億円)

区分	10年度	15年度	差引
公共事業費	1,620	878	△742(△46%)

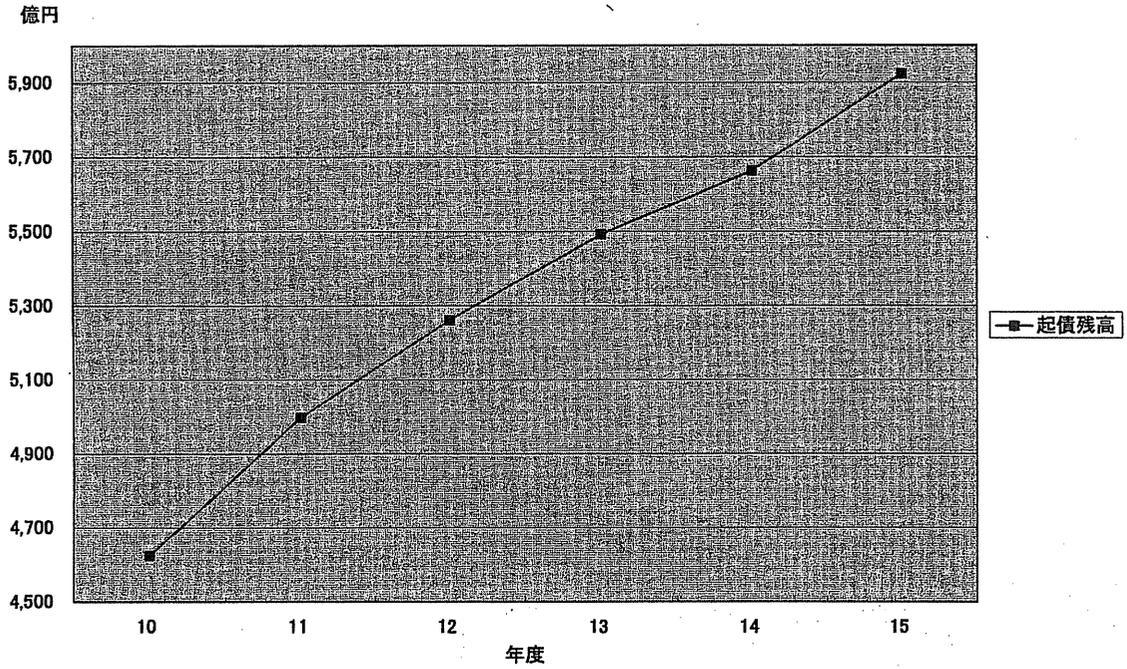
○歳入の状況(決算額) (単位: 億円) (参考)

区分	10年度	15年度	差引
地方交付税	1,527	1,342	△185(△12%)

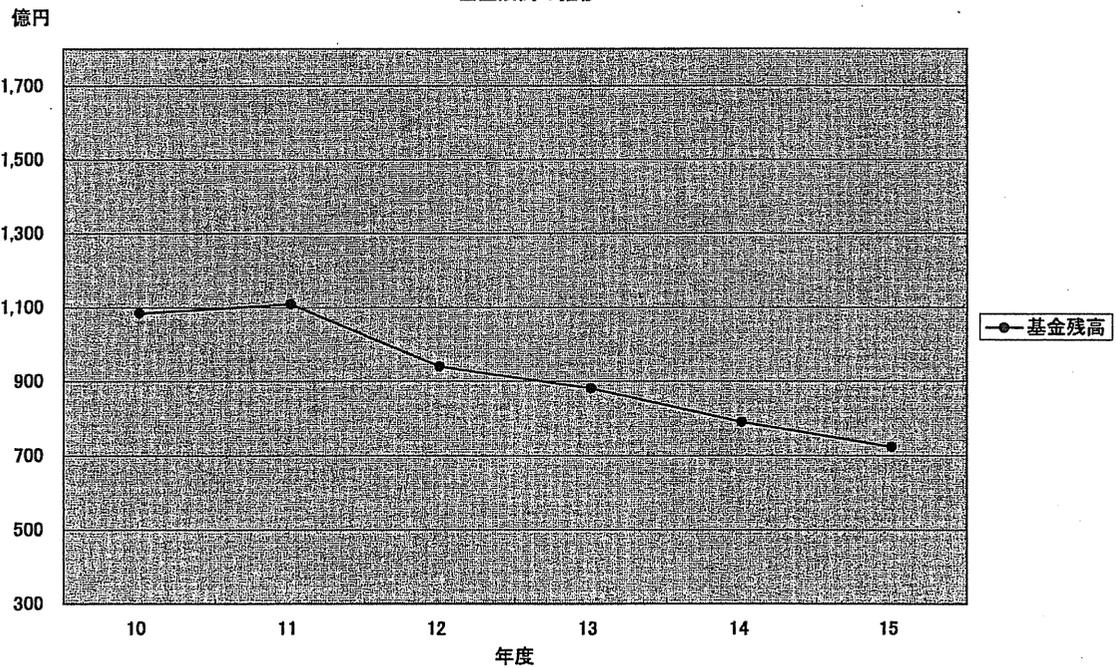
16年度予算額	1,269
---------	-------

※比較時: 12年度1,726億円→15年度差引△384億円(△22%)

起債残高の推移(NTT債除く)



基金残高の推移



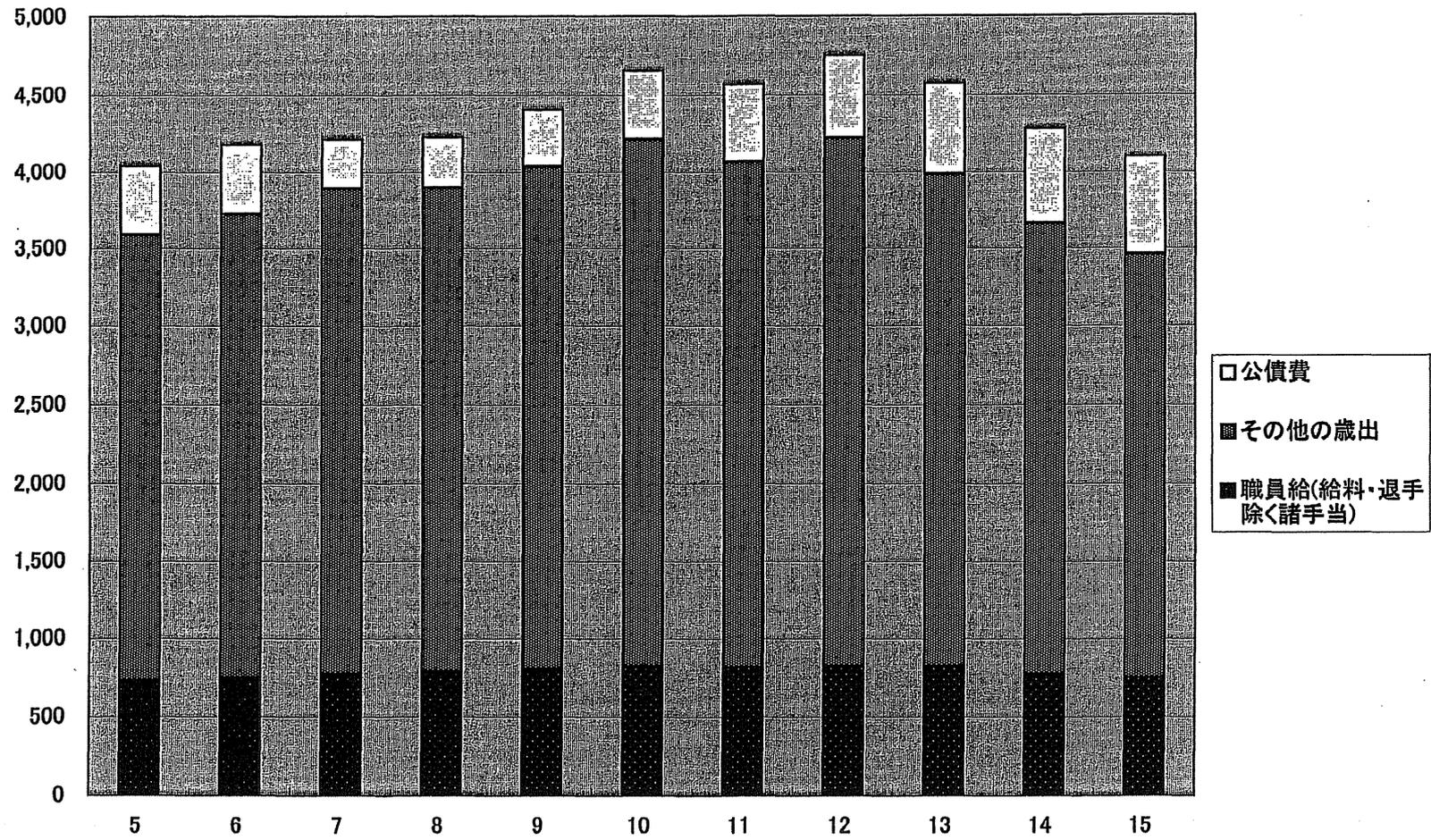
○ 県債残高、基金残高の状況 (決算額) (単位：億円) (参考)

区分	10年度	15年度	差引
県債残高	4,625	5,924	1,299(28%)
基金残高	1,084	724	△360(△33%)

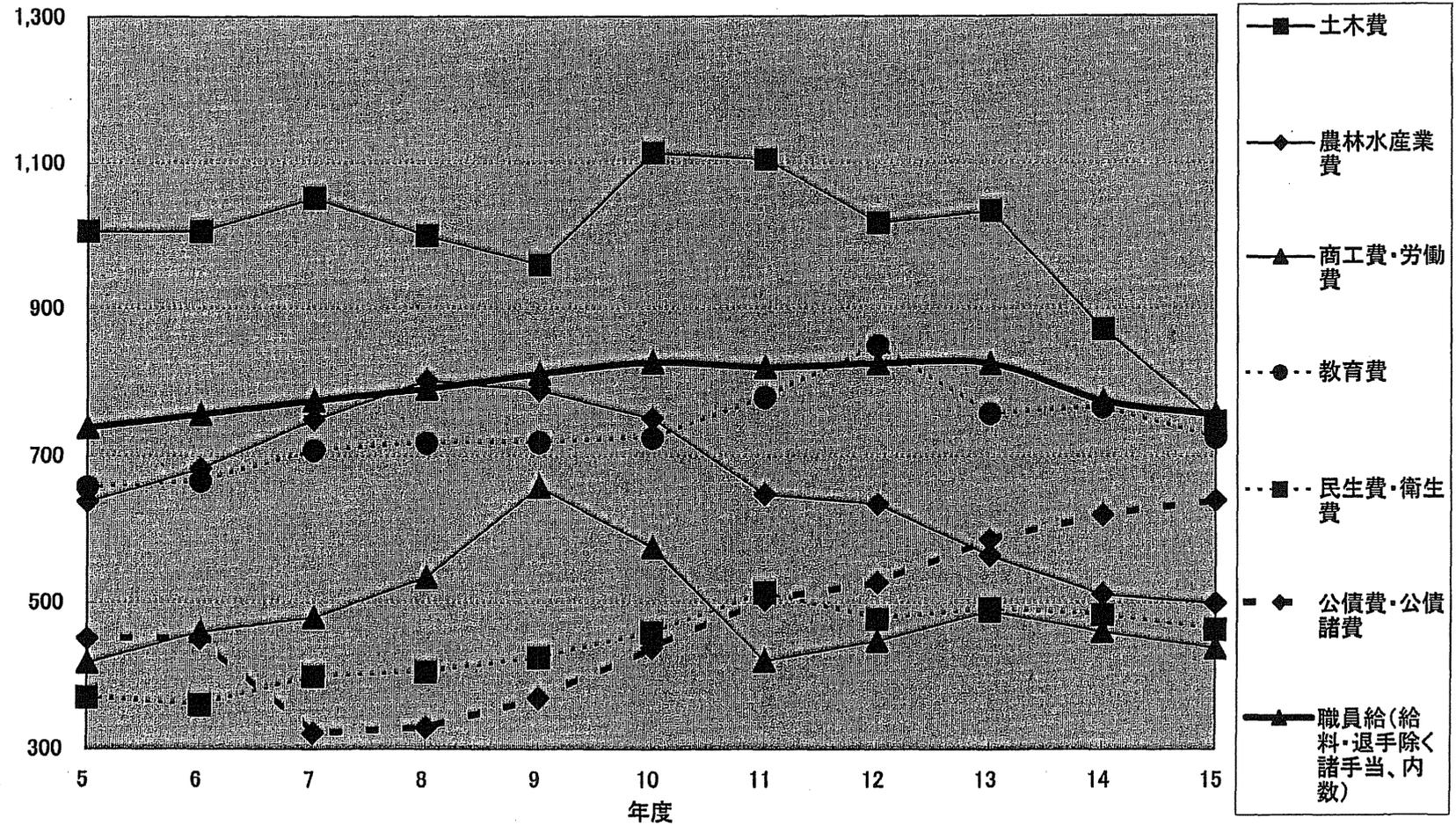
16年度末見込	6,040
	580

※県債残高はNTT債を除く

普通会計決算の推移



普通会計決算の推移



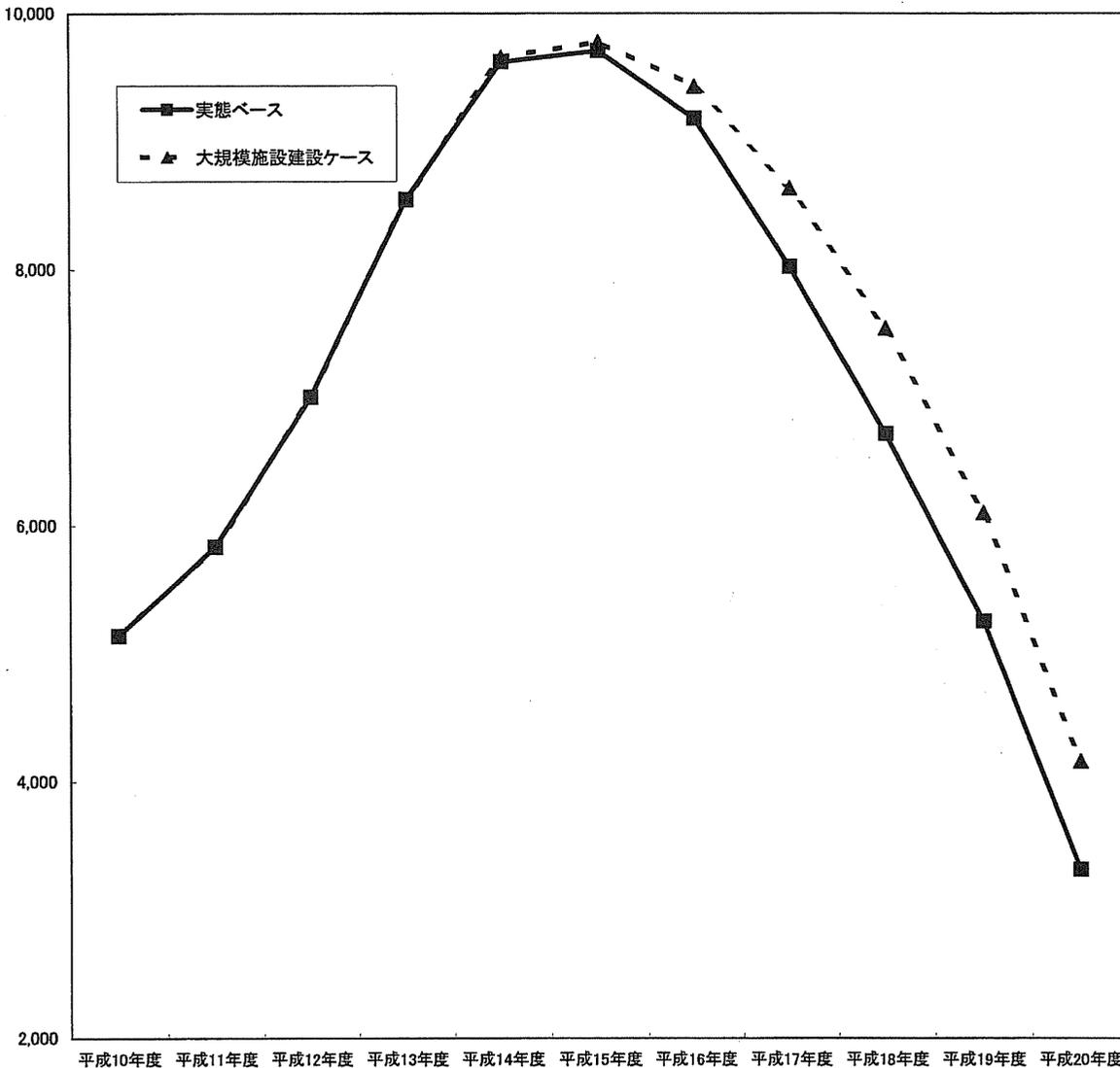
大規模施設中止に伴う節減効果 (地域総合整備事業債活用事業)

平成12年度以降事業中止等の見直しを行った事業、

合計135億円の削減(起債ベース)

- 県立美術館 61億円
- 砂丘博物館 47億円
- かに博物館 33億円 → 6億円

(百万円)



(単位:百万円)

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
① 実態ベース	5,143	5,836	7,007	8,548	9,622	9,708	9,179	8,022	6,717	5,254	3,316
② 大規模施設建設ケース	5,143	5,836	7,007	8,548	9,656	9,777	9,430	8,637	7,541	6,100	4,162
③ 節減額累計	0	0	0	0	34	103	354	969	1,793	2,639	3,485

①は地域総合整備事業債元金償還額の推移、②は見直しした3施設(県立美術館、砂丘博物館、かに博物館:借入予定額計約141億円)を実際に建設した場合の元金償還額の推移、③は②-①の累計額(節減額)

ニューディール開始時と比べ、 一般財源が想定外の大減 16年度は14年度決算比△157億円の見込み

◎これは地方交付税及びその不足を補う臨時財政対策債の急激な減額によるもの
(14年度決算比△169億円)

◎三位一体改革により、今後もこれ以上の増額は見込めず

◎税収も伸び悩む中、実質的な手持ち資金も先細り
(実質収支(毎年の節約で捻出)と基金の合計 14年度末比△218億円)

一般財源の決算額の推移(普通会計)

※16年度は9月補正後予算額

